

年度末の3月

3月に入り、春到来と思いきや、東京都心では3月としては7年ぶりの積雪を観測するなど暖かな日はまだ先のようなようです。寒暖の差が激しいのでみなさんも体調管理を十分にして、この年度末の3月を乗り切りましょう。

何かと慌ただしくなりがちな3月です。ここで終了する業務もあれば、継続して行うものや、新たに進める業務もあります。みなさんに直接影響する雇用契約に関しましては、現場毎に会社の方針を策定しますが、みなさんのより一層のご協力を得られる形が望ましいと思っております。昨今の情勢はみなさんご承知の通り、年々厳しくなっています。その中で生き残っていくにはどうしても業務の効率化を図らなくてはなりません。1人分の仕事をするのはもちろんの事ですが、+ (プラスアルファ)の部分が重要になってきます。無論1人分未満では話しになりません。多摩クリーナーに仕事を任せて良かったと思われる様に、会社としても最大限の努力をしていきますので、みなさんも意識を一つにしていきましょう。

昭和20年3月10日

昭和20年3月9日22:30警戒警報発令、二機のB29が東京上空に飛来して房総沖に退去したと見せかけ、都民が安心した10日0:08に第一弾が投下された。東部軍管区司令部はまだ気付いておらず、当然ながら空襲警報も鳴らない。

0:15空襲警報発令、それから約2時間半に渡って波状じゅうたん爆撃が行われた。各機平均6トン以上の焼夷弾を搭載した344機のB29の大群が、房総半島沖合から単機または数機に分散して低高度で東京の下町に侵入した。

都民の虚をついて来襲したB29の大編隊は、低空からアルミの細片をばら撒いて日本軍の電波探知機を無能にし、機体を捉えたサーチライトには機銃掃射を浴びせかけた。

B29の先発部隊が江東区・墨田区・台東区にまたがる40km<sup>2</sup>の周囲にナパーム製高性能焼夷弾を投下して火の壁を作り、住民を猛火の中に閉じ込めて退路を断った。その後から約100万発(2,000トン)もの油脂焼夷弾、黄燐焼夷弾やエレクトロン(高温・発火式)焼夷弾が投下され、逃げ惑う市民には超低空のB29から機銃掃射が浴びせられた。

折から風速30mの強風が吹き荒れて火勢を一層激しいものにし、火の玉のような火の粉が舞い踊り、強風に捲かれた炎が川面を舐めるように駆け抜け、直接戦争とは関係の無い一般市民は次第に狭まってくる火の壁の中を逃げまどいながら、性別も判らないような一塊の炭と化すまで焼き尽くされた。



犠牲者 縁者が引き取った遺体 約20,000人

無縁仏・行方不明者 約88,000人

～社長 石井より一言～

このような先人達の犠牲の上に、今我々は生かされています。脈々と続く日本人としての心を、魂を未来にも繋げたいものです。